

C. 学校生活における時間と空間の利用についての研究

— 本校における施設・設備の使用の実態と検討 —

天野菊三郎・中根一芳・加藤貞夫
高橋恵亮・杉山光男・服部晴子

まえがき

現在本校における施設・設備の利用状況を実際面から調査し、そのなかから教育上の不備な点を探し出して、その改善を検討しようと考えている。前年には普通教室・特別教室・体育施設等の使用頻度、生徒・教

師の校内における行動、プールの利用状態、生徒の学習姿勢と視力との関係などについて報告した。本年はこれにひきつづき、普通教室の黒板に対する生徒の視覚について二・三の知見を得たので、これを述べ、さらにプールの利用状態の統報を加える。

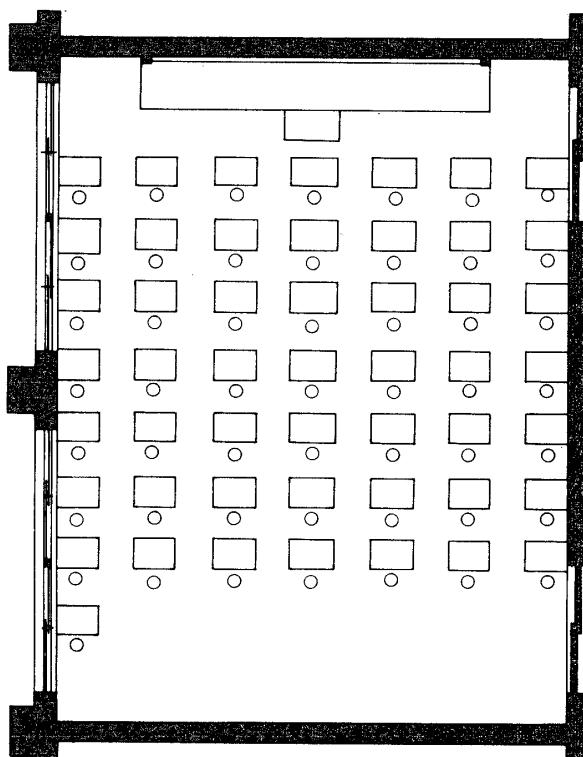
普通教室について

1. 黒板に対する生徒の視覚

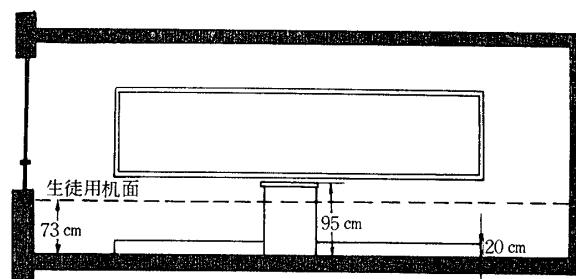
本校の普通教室は横7m、縦9mで、学級規模は50名、生徒用の机の配置は第1図に示すとおり7行7列(1部8列)で教室面積をほとんどいっぱい使っている

る。また黒板は巾4.7m、縦1mの緑色、木製、平面のものを採用し、教室の前・後・側と3面にとりつけてある。本調査は前面のもののみについて行なった。黒板・教卓・教壇および生徒用机の面の高さを第2図に示す。

第 1 図



第 2 図



A. 黒板面が前席の生徒によりどのようにさまたげられるか。

高校1年生の1つの学級を調査対象とした。生徒用の机は一斉に73cmの高さでそろえた。ふだんの着席は別に身長順になっていない。全生徒が黒板に正対した姿勢(ノートをとる時の姿勢ではなく)のままで、黒板面をスケッチさせそのなかに自分より前に着席している生徒の後姿がどのくらいの面積でふさがっているかを画かせた。もちろん前列の方の生徒は黒板の視角は後列のものより大きく、また教室両側の行の生徒